

水土里レポート 投稿様式

投稿月日 平成26年7月15日

タイトル 日本一の「くわい」を取材したよ！

水土里レポーター名 水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年6月26日（木）福山市立川口小学校5年生100名が、福山市川口町の水土里ネット福山の組合員の種本守雄さんのほ場、約1,000㎡で福山市の特産物である「くわい」の植付けを取材しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培し、農家の方から生の声を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について取材することで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

その第1弾として、子ども達が「くわい」植付けの取材をすることとなりました。

川口小学校から歩いてほ場まで移動した子ども達、手には取材のために必要なノートと鉛筆を持っています。ほ場に着くと、まず見学の前に、種本さんから「くわい」について説明を聞きました。

「くわい」は、昨年収穫した「くわい」の中から今年の種になるものを選び、冷蔵庫で1℃から3℃の凍る手前の状態で休眠させておく事、当日の植付けのため6月15日に冷蔵庫から出しておいたら、芽が5cmほど伸びた事、根がどこから生えてくるか、また、収穫の時期などが説明されました。

子ども達は、真剣にメモを取って話を聞いていました。



このくわいを植えていきます



真剣に話を聞いています

説明を聞いた後、子ども達から質問があり、種本さんが丁寧に答えてくださいました。

子ども達からの質問と回答

子ども・・・どんな病気がありますか？

種本さん・・・ひぶくれ病といって火傷したようになる病気がある。

子ども・・・もし病気になったらどうするの？

種本さん・・・「くわい」は福山市が認定している「ふくやまSUN」ブランドですから、許可を得ている農薬を使って、病気を治します。

子ども・・・害虫はいるの？

種本さん・・・黒いアブラムシが害虫。茎の樹液を吸うので枯れてしまう。

子ども・・・助ける虫はいるの？

この質問には、福山市農業協同組合川口グリーンセンターの三谷庄一係長から、広島県で実用化に向けて研究がされている事やこういった虫の事を益虫という事など説明していただきました。

最後に川口小学校の小野先生からの質問で、くわいを栽培して良かった事と辛かった事をお聞きしました。

種本さんは、良かった事は、他の農作物に比べてくわいは収益が多い事をあげられ、辛い事は、収穫が寒い時期の11月から12月に行われ、しかも水を使って収穫するため、とても寒いことをあげられました。



いろいろ知りたいな！



これもメモしなくちゃ！

質問が終わると、ほ場の前に一列に並んで、実際に植付けしておられるところを見学です。種本さんのご家族4人で植付けしておられました。

「くわい」は、水稲の田んぼをそのまま利用して栽培します。水を張ったほ場へ「くわい」の種を一つずつ手で植えていきます。稲と同じで、植える場所が分かるように印をつけた糸を張って、一列植えると後ろへ下がって植えていきます。

収穫の掘る作業は機械化が進んでいますが、植付けについてはまだ機械が導入されていないため、約1,000㎡のほ場へ約4,000粒を手で植えます。気が遠くなるような量に感じますが、種本さんは2時間ほどで植えてしまうそうです。



元気な芽のでた「くわい」だよ！



100人みんなで見学です！

子ども達は、小学校の校庭でも「くわい」を植えて半年間、成長を観察するそうです。また、植付け見学や30日に開催する出前授業など、記事にまとめて新聞を作るそうです。